

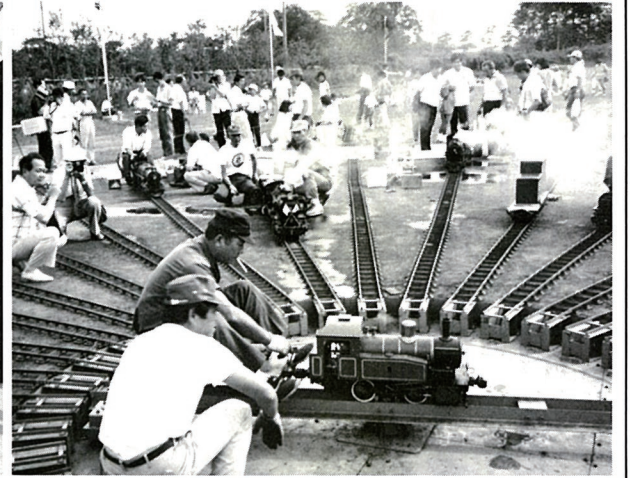
機械工学専攻（８）電気工学専攻（８）建築学専攻（８）	
	一般入学（二次募集）
出 願 期 間	2月22日～3月3日
試 験 日	3月8・9日
合 格 発 表	3月12日



拍手に迎えられて



「坊や、運転はこうするんだよ」



ターンテーブルで出番を待つ



オープニングレセプションでママさんと合唱

夢・郷愁・メルヘン



挨拶を述べる窪田宗英理事長



参加国旗を背に記念撮影



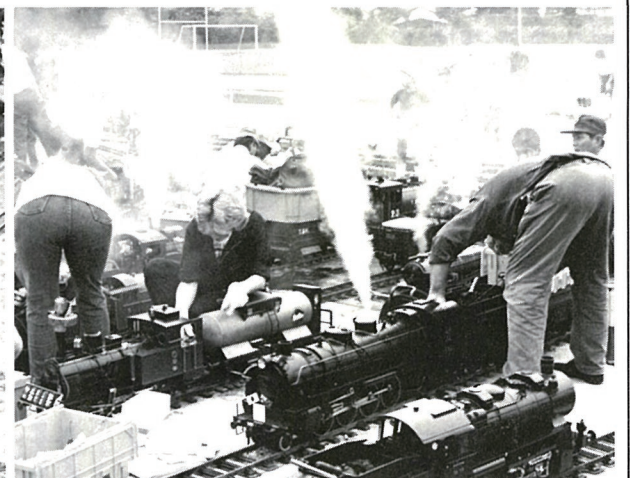
テープカット



ミニSLがとりもつ国際親善



鈴なりの客車



愛機の手入れをする製作者



友情参加した金沢工大のミニSL



長蛇の列「僕も早く乗りたいなあ」



白煙をあげて

東工学園創立80周年 日本工業大学創立20周年 記念行事

★11月1日（日曜）

- 大学公開（東工学園同窓会対象）
- 東工学園創立80周年記念
大学創立20周年記念行事の入選作展示
会場——本館2階会議室
- 大学祭オープニング

★11月2日（月曜）

- 東工学園創立80周年記念
大学創立20周年記念行事の表彰式
会場——学友会館
- 東工学園創立80周年記念
大学創立20周年記念行事の入選作展示
会場——本館2階会議室

- 大学祭

★11月3日（火曜）

- 大学公開（同窓会・後援会対象）
- 学友会館オープニングコンサート
出演者——日野美歌
時 間——11:00～14:00
会 場——学友会館ホール
入場料——無料
- 大学創立20周年記念祝賀会
時 間——14:30～17:00
会 場——体育館
- 東工学園創立80周年記念
大学創立20周年記念行事の入選作展示
会 場——本館2階会議室
- 大学祭最終日

◆ 記 念 講 演 ◆

■「やすらぎの住居学」

講演者——清家 清（東京工業大学を卒業後、東京工業大学工学部長、東京芸術大学美術学部長などを歴任、現在日本工業大学客員教授、すぐれた一連の住宅作品で国際的にも有名な建築家である。）

日 時——10月24日（土曜）
14:00～16:00

会 場——日本工業大学学友会館
入場料——無料

■「独創をはぐくむ」

講演者——西澤順一（東北大学を卒業後、(財)半導体研究所所長、東北大学電気通信研究所所長などを歴任、現在東北大学教授、光ファイバー、静電誘導トランジスタなど光通信や半導体に関する数々の研究・発明がある。）

日 時——11月14日（土曜）
14:00～16:00

会 場——日本工業大学学友会館
入場料——無料

申込方法——希望テーマを明記の上、講演10日前までに往復ハガキにより申込み下さい。
（応募多数の場合は抽選となります。）

叱られる

学 長 三 浦 毅 郎

ミニSLの線路が敷かれたので、一度見てこようと、車を回した。できるだけターンバイクに近づくために、車は運動場に入った。そのとき物凄い声で怒鳴られた。

「コラッ、入っちゃいかん。芝がだめになるじゃないか。」

あわてて車から降りた。見ると、芝に轍がくつきりついている。私は声のした方に歩いていって、平謝りに謝った。

私はいつか、土手に植えられた桜がどうなっているか見ようと、歩き回った。そのときこの人に会ったことがあった。

彼は芝の管理責任者であった。そのときも芝の間から伸びている雑草を一本一本引き抜いていた。彼の丹精で、高麗芝は見事に育っていた。

私は彼のそばにしゃがみこんで、絨毯のような高麗芝を撫でながら、しばらく話した。

私はその人から怒鳴られたことが大変うれしかった。

人 事

異動（十月一日付）

▽図書館長

竹内淳彦教授（たけうち・あつひこ）——新任

▽電気電子工学科主任
八田達教授（はった・とおる）——新任



▽学生部長
小林勉教授（こばやし・つとむ）——新任



▽建築学科主任
吉岡丹教授（よしおか・まこと）——再任



▽教養科主任
矢島幸雄教授（やじま・ゆきお）——新任



任用（十月一日付）

▽システム工学科 助教授
鈴木清（すずき・きよし）



退職（九月三十日付）

▽大宣昭芳建築学科助教授



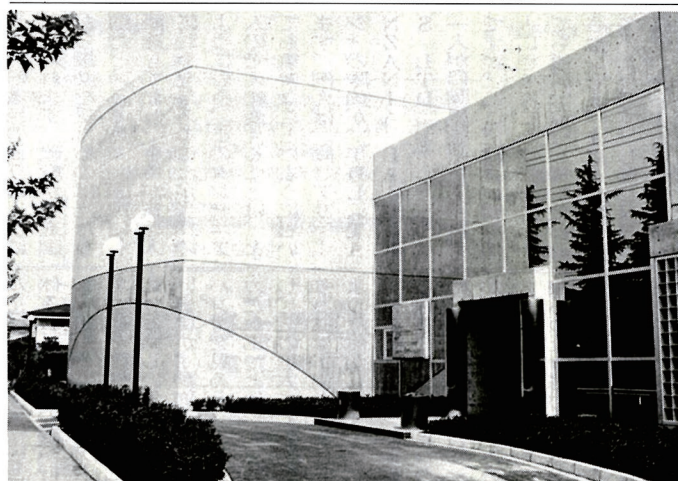
東工学園創立80周年 日本工業大学創立20周年 記念事業

学友会館完成

学園創立八十周年、大学創立二十周年記念事業として、建設が進められていた記念講堂・演習棟が完成し、去る七月二十六日（日）、窪田理事長、三浦学長をはじめとする大学、後援会および同窓会等の関係者に対し、披露された。

窪田理事長から、後援会、同窓会の援助によって完成したことに対し謝意が述べられ、三浦学長からは、この建物を「学友会館」と呼ぶことにすると述べられた。

学友会館は、鉄筋コンクリート造二階建延面積一四九七平方メートルの建物で、三〇〇名収容の多目的ホールのほか、大小の会議室ならびに宿泊室を備えており、今後国内外の大学や諸研究機関等との学術交流、研究活動の充実等、大学の諸活動の活性化に大きな威力を発揮するものと期待されている。



完成した学友会館

この学友会館は、すでに実施されたミニSL国際フェスティバル参加の外国招待者の予定されている。

宿泊施設として利用されたが、来たる十一月三日（火）には、柿落しとしてのコンサートが予定されている。

卒業生からのレポート

タンザニアでの毎日

内田 善久

海外青年協力隊員の仕事

自分は現在、タンザニア国建設省国家設計施工管理公社（NATIONAL ESTATES AND DESIGNING CORPORATION）でARCHITECTとして勤務しています。

NEEDCOの本社はダル・エス・サラームにあり、支社はここアリュシヤとトドマにありますが、建設部門は本社とアリュシヤ支社にしかありません。

本社には隊員として建築設計と構造設計の二人、アリュシヤ支社には自分と一陽氏が建築家として勤務しています。NEEDCOで働く外国人は他におらず、我々四人だけです。NDCOの組織はGENERAL MANAGERをトップとして会計・財務部、人事経営部、建築部、土木部、積算部、工務部の六部門からなり、社員数は約二五〇名です。

建築部はチーフアーキテクト一名を初めとして、アーキテクト一級、二級、サブアーキテクトとしてその下にテクニシャン部門があり、我々日本人はアーキテクト一級に属しています。

建物を考えるアーキテクト部門とただ図面を描くテクニシャン部門とは完全に分割されているのが特徴です。アリュシヤ支社には、我々日本人と支社長のMr. MADAのアーキテクトが三人います。Mr. MADAは日本留学の経験もあり我々の良きパートナーで、我々が知らないタンザニア建築法規にも知識が

どに「一人暮しで多過ぎるの、半分食べてくれないか」などという、彼女に与えま。何の足しにもならないことは良くわかってはいるのです。が……。

タンザニアの建築物

タンザニアの建築物は、ほとんど鉄筋コンクリート及びブロック造りです。ブロックの寸法は二三〇ミリ×一五〇ミリ×四五〇ミリというタンザニア独自の物です。建物の寸法はすべてブロック寸法より決っており、耐力壁の厚さは二三〇ミリ、間仕切壁は一五〇ミリで時によって一〇〇ミリのブロックを使用します。ですから柱は建物の形状等にかかわらず、特殊な物を抜かしてほとんどが二三〇ミリ×二三〇ミリ、また梁幅も二三〇ミリとなっています。建物の骨組及びスラブは鉄筋コンクリート、壁はすべてブロック造りです。したがって開口部は必ず梁下すぐに設けなくてはなりません。時によって軒高が高い場合は開口部に梁を設けなければなりません。コストが高くなるため特殊な場合以外は使用しません。

タンザニアではコストが安く、施工しやすい物を設計するのがベストという観念があります。最貧国であるタンザニアではコストが安いことが、すなわち実際に建物が建つということになるからです。また我々が実施設計に移る前に考えることは、その地域でどのような材料が入手出来るかということです。なぜなら設計してもその材料がないというのではいけません。そこで、材料の有無はとも重要なこととなります。

次にいかにコストを低く抑えるかです。タンザニアの現場作業員は監督を除き、図面を讀むことの出来る者はほとんどいません。

設計するとき日本と違つて注意することは、ドアを除きすべての開口部には鉄格子をつけ、外部に面するドアは内開きと決つてゐるのです。これは強盗などから身を守るためのタンザニア人の知恵だと現地人は言います。

また日本人と一番違つてゐるは、タンザニアは赤道に近いので陽が南、北の両方からさします。このことはタンザニアに来て初めて気が付きました。

日本では通常居室等は南側に配置しますが、ここでは南北を問わず配置出来ます。むしろ、陽を避け涼しくすることがとても問題になります。また、庇が長すぎると陽が入らなくなりしかも短かすぎる今度はスクロール時及び陽が入りすぎるという問題になります。

クリート、壁はすべてブロック造りです。したがって開口部は必ず梁下すぐに設けなくてはなりません。時によって軒高が高い場合は開口部に梁を設けなければなりません。コストが高くなるため特殊な場合以外は使用しません。

タンザニアではコストが安く、施工しやすい物を設計するのがベストという観念があります。最貧国であるタンザニアではコストが安いことが、すなわち実際に建物が建つということになるからです。また我々が実施設計に移る前に考えることは、その地域でどのような材料が入手出来るかということです。なぜなら設計してもその材料がないというのではいけません。そこで、材料の有無はとも重要なこととなります。

設計するとき日本と違つて注意することは、ドアを除きすべての開口部には鉄格子をつけ、外部に面するドアは内開きと決つてゐるのです。これは強盗などから身を守るためのタンザニア人の知恵だと現地人は言います。

また日本人と一番違つてゐるは、タンザニアは赤道に近いので陽が南、北の両方からさします。このことはタンザニアに来て初めて気が付きました。

日本では通常居室等は南側に配置しますが、ここでは南北を問わず配置出来ます。むしろ、陽を避け涼しくすることがとても問題になります。また、庇が長すぎると陽が入らなくなりしかも短かすぎる今度はスクロール時及び陽が入りすぎるという問題になります。

クリート、壁はすべてブロック造りです。したがって開口部は必ず梁下すぐに設けなくてはなりません。時によって軒高が高い場合は開口部に梁を設けなければなりません。コストが高くなるため特殊な場合以外は使用しません。

タンザニアではコストが安く、施工しやすい物を設計するのがベストという観念があります。最貧国であるタンザニアではコストが安いことが、すなわち実際に建物が建つということになるからです。また我々が実施設計に移る前に考えることは、その地域でどのような材料が入手出来るかということです。なぜなら設計してもその材料がないというのではいけません。そこで、材料の有無はとも重要なこととなります。

次にいかにコストを低く抑えるかです。タンザニアの現場作業員は監督を除き、図面を讀むことの出来る者はほとんどいません。

設計するとき日本と違つて注意することは、ドアを除きすべての開口部には鉄格子をつけ、外部に面するドアは内開きと決つてゐるのです。これは強盗などから身を守るためのタンザニア人の知恵だと現地人は言います。

また日本人と一番違つてゐるは、タンザニアは赤道に近いので陽が南、北の両方からさします。このことはタンザニアに来て初めて気が付きました。

日本では通常居室等は南側に配置しますが、ここでは南北を問わず配置出来ます。むしろ、陽を避け涼しくすることがとても問題になります。また、庇が長すぎると陽が入らなくなりしかも短かすぎる今度はスクロール時及び陽が入りすぎるという問題になります。

るのに多少の勇気が必要です。また足場の掛け方も一〇〇二〇程度の丸太をロープで縛るだけで、外部に面するドアは内開きと決つてゐるのです。これは強盗などから身を守るためのタンザニア人の知恵だと現地人は言います。

また日本人と一番違つてゐるは、タンザニアは赤道に近いので陽が南、北の両方からさします。このことはタンザニアに来て初めて気が付きました。

日本では通常居室等は南側に配置しますが、ここでは南北を問わず配置出来ます。むしろ、陽を避け涼しくすることがとても問題になります。また、庇が長すぎると陽が入らなくなりしかも短かすぎる今度はスクロール時及び陽が入りすぎるという問題になります。

クリート、壁はすべてブロック造りです。したがって開口部は必ず梁下すぐに設けなくてはなりません。時によって軒高が高い場合は開口部に梁を設けなければなりません。コストが高くなるため特殊な場合以外は使用しません。

タンザニアではコストが安く、施工しやすい物を設計するのがベストという観念があります。最貧国であるタンザニアではコストが安いことが、すなわち実際に建物が建つということになるからです。また我々が実施設計に移る前に考えることは、その地域でどのような材料が入手出来るかということです。なぜなら設計してもその材料がないというのではいけません。そこで、材料の有無はとも重要なこととなります。

次にいかにコストを低く抑えるかです。タンザニアの現場作業員は監督を除き、図面を讀むことの出来る者はほとんどいません。

設計するとき日本と違つて注意することは、ドアを除きすべての開口部には鉄格子をつけ、外部に面するドアは内開きと決つてゐるのです。これは強盗などから身を守るためのタンザニア人の知恵だと現地人は言います。

また日本人と一番違つてゐるは、タンザニアは赤道に近いので陽が南、北の両方からさします。このことはタンザニアに来て初めて気が付きました。

日本では通常居室等は南側に配置しますが、ここでは南北を問わず配置出来ます。むしろ、陽を避け涼しくすることがとても問題になります。また、庇が長すぎると陽が入らなくなりしかも短かすぎる今度はスクロール時及び陽が入りすぎるという問題になります。

生時代、伊藤先生を初め各先生方が自分を指導してくれたことに深く感謝しています。昼食なしの勤務時間

勤務時間があります。☆月曜日（金曜日）朝八時～三時（昼食なし）☆土曜日朝八時～一時

これはNEEDCOの時間表です。タンザニアの国の機関もほぼこの時間帯で仕事を行っています。

タンザニア人は通常はスワヒリ語、同じ部族同士ではスワヒリ語が部族語、そして高学歴者は英語を話すことが出来ます。

NEEDCOでは図面はすべて英語です。自分自身は仕事場では英語を使用しています。でも、あいつや市場での買物はスワヒリ語を使用します。が、今だに言葉の問題は自分にとって大きな障害です。

ここArushaはマサイ、チャガ、ブル、メル、アリュシヤ等の部族の人間が多く、現在は酋長はいません。マサイを除いては皆ほぼ同じで、異部族同士の結婚も多く見られ、気質は温和で争い事は好みません。意外と平和主義者が多く、人が困っているのを助けてくれる人が多いです。また逆にタンザニア人は散歩（テンペア）スワヒリ語が好きで、仕事中でもテンペアしに行つてしま

ます。また泥棒も多く何でも取つていってしまふし、自分が一番嫌だと思うのが物乞いを平気でするのが気になります。

しかしマサイは他の部族とは違つてゐます。タンザニア人になつてみると、彼等は危険人物でもあり特別だと言つています。

確かに、ホテルやレストランの立ち並ぶ街や住宅地などを、数十頭の牛をつれて歩いている姿はなんとも変な風景ですが、街で見るマサイは普通のタンザニア人とは姿、格好が異なるだけで、後は変わりないように思います。

二、三度サバンナを車で走りましたが、水が一滴もないような所や岩だらけの山・砂漠に近い大地などで生活をしているマサイは、街で生活をしているマサイとは異なり毒を塗つたヤリを持ち、耳に穴を開けており、アフリカを感じさせます。

時々日本のテレビ局がタンザニアへ来ます。必ずここArushaへ来ます。我々も彼等に協力をしますが、日本のテレビはマサイと動物ばかり取材し帰つていきます。自分も以前はそうでしたが、日本人のアフリカに対するイメージは土人と野生動物達ばかりではないでしょうか。

NDCOのスタッフがいつも自分と言うことは、なぜ日本のテレビ局や他の国のテレビ局はマサイと動物ばかり取材して、我々の仕事や美しい風景・タンザニア人の習慣などを取材しないのか」と自分に尋ね、いつも答えに困ります。

しかしアフリカの大きな都市には規模は小さいまでも都市に必要な施設・交通等はありますし、ここアリュシヤにも国際会議場・タンザニア一番の高級ホテルやゴルフ場・図書館またチャイニーズレス

トラン等もあります。特にケニアのナイロビには二十階の高層ビルや日本のホテルと同等の多くの高級ホテル、日本料理屋、カジノ等ヨーロッパなどと変りない大都市です。

タンザニアの本当の顔

しかしまた、反面日本人には想像もつかない現地人の生活があります。多くは土の家に住み毎日ウガリ（トウモロコシの粉をお湯で練った物）を食べ、やはりそこにも最貧国タンザニアの本当の顔が見えます。

独立して二十六年経つた現在でも経済はイタ人達が握っています。街中の商店、及びブラックマーケットはすべて彼等の経営で、タンザニア人はそこで安い賃金で働いています。

給料の安い官公庁にはインドル人はおらず、すべてタンザニア人です。すなわち金持はインド人か貧乏人はタンザニア人ということです。

自分がおもうに、政治・経済の両方を司ることをタンザニアの本当の独立のように思われれます。政府が先進国から援助を受けるのは当たり前だといふ考え方が国民にも浸透しており、金持が貧乏人にお金を与えることが当然のように思う、このタンザニア人の考えを変えることは、とても重要なことのように思っています。例えば、同じアリュシヤの隊員が、TDL（TANZANIA DAIRIES LTD）で働いています。一人が自動車整備、二人が電気ですが、ここではタンザニア人に色々なことを指導して残りの任期を悔いが残らぬよう努力をするつもりです。またここタンザニアに何かを残していこうと思

います。自分はタンザニアが好きです。（昭和五十八年三月建築学科（伊藤庸一研究室）卒）

自分は今アリュシヤ市内のキジェンゲという地域でAICCフラット団地に住んでいます。二階建ての集合住宅で自分の家は、窓からメル山が見える二階です。

静かな地域で近所の人達は大変親切です。子供達からはジャバニ ウチダと呼ばれてゐます。

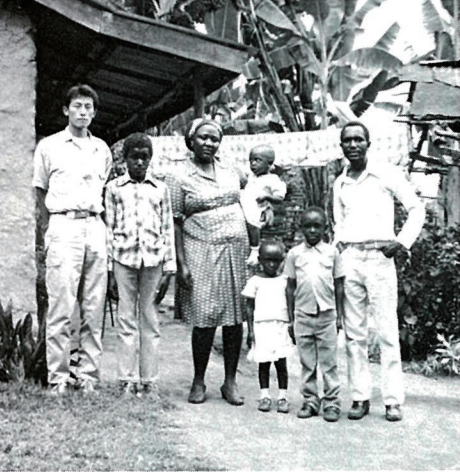
夜はやはり危険なため夜七時から朝六時まではウォッチマンが一人自分の家の前番番をしていてくれます。ですから近所の人達も自分がここに住んでいるため多少安心して夜を過ごしているのではないのでしょうか。

会社まではオートバイで約七、八分です。街中では一番背の高いビルで、一階はチャイニーズレストラン、そして自分のオフィスは最上階の六階、ここからメル山が見えます。刻々と姿を変えるメル山は、心を和ませてくれます。

ここArushaから国立公園までクルマで約二時間、休みの日は近くの湖へ行き、釣をしたり（テラピアという魚、また野生動物を見に行つたりと楽しい日々を過ごしていますが、動物達と広大なサバンナを見ると、「ああアフリカだなあ」といつも感じます。その雄大さと動物達の力強さには、何かを教えられるような気がします。

はや着任後七ヶ月が過ぎ任期残り一年五ヶ月となりました。毎日充実しているため時が経つのが早くあつたという間でした。残りの任期を悔いが残らぬよう努力をするつもりです。またここタンザニアに何かを残していこうと思

います。自分はタンザニアが好きです。（昭和五十八年三月建築学科（伊藤庸一研究室）卒）



現地の家族と